

教職員研究グループ活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	兵庫県立和田山特別支援学校 教諭 大道 有起	研究グループ名 (作業学習研究チーム)
-----------------	---------------------------	------------------------

研究テーマ分類番号 (9)

(1)研究テーマ
特別支援学校高等部の作業学習における共に学ぶ授業内容の研究
(2)研究経過及び具体的な取組
<p>1 知的障害生徒・肢体不自由生徒・視覚障害生徒などが作業学習において共に学べる授業内容検討の具体的な取組について</p> <p>6月 ・進路目標別(作業習熟度別)のグループを編成し、メンバーにおいては、ワーク会や学年会などで、複数の視点から十分な話し合いを行ったうえで決めた。</p> <p>6月～12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態把握と授業内容の選択について <ul style="list-style-type: none"> - 実態把握は一人で行わず、グループごとに複数の目で行った。授業内容においても、生徒の実情を鑑み、話し合いや検討をしたうえで、出石では農園班やさをり班、陶芸班、木工班、ハンドワーク班などに分かれ、それぞれ作業に取り組んだ。和田山では3つの班に分かれ、グループごとに会議などを開き、たまのれんやりサイクル分別、ペットボトル分別、新聞紙バッグづくり、紙すき、さをり織り、パーラービーズ、牛乳パックたたみ、作業基礎、PC作業、清掃作業などの様々な作業を精選、選択し取り組んだ。 ・指導計画や支援方法について <ul style="list-style-type: none"> - 授業における指導計画は1学期ごとに行った。一人一人の授業目標をきめ細やかに設定し、評価を行い、新たな目標につなげることをシステムとした。それらをグループ内でシェアすることにより、隔たりのない支援、迷いのない支援が行えるようになった。 ・支援具や自助具の作成について <ul style="list-style-type: none"> - 学校にあるものや個人で持っているものに様々な工夫を行い、授業に取り入れた。たとえば、滑り止めシートを用い容器の固定や、姿勢の維持、「オユマルクン」の使用など。様々な支援具や自助具の情報をシェアした。 <p>2 現状での成果と課題</p> <p>教員間での情報の共有、複数の目で行う計画や評価は、授業の幅や質を高め、スムーズな展開を生むことを実感として感じられた。また、それら授業の中で、支援具や自助具を効果的、効率よく使うことで、共に学ぶ環境が整えられると感じた。今まで様々な支援方法や支援具、自助具を試してきたので、今後は実際に特に効果的だと感じられた物品を購入し、今後につなげていきたい。最後に、分別作業などで様々なかごや容器を使用したけど、色や形、大きさがバラバラで、不便さや戸惑いを感じるがあった。今後は構造化の視点からも、可能な限り整備したい。</p>